

## 平成 29 年度 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 29 年 10 月 10 日（火） 午前 10 時～正午

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者

荒尾市長	浅田 敏彦
荒尾市教育長	永尾 則行
荒尾市教育委員	境 民子
荒尾市教育委員	西尾 直子
荒尾市教育委員	泉 亜矢
荒尾市教育委員	旭田 國浩
(事務局職員) 総務部長	石川 陽一
政策企画課長	宮脇 浩司
政策企画課課長補佐	田中 憲士
政策企画課参事	林田 真司
教育次長兼教育振興課長	前田 偉知雄
教育振興課教育審議員	西嶋 徹
給食センター所長	田上 智子
教育振興課課長補佐	松井 敏彦
教育振興課主事	貴田 優梨亜
生涯学習課長	大神 英子

4. 傍聴者 0 名

### 5. 議事

- (1) 荒尾市の教育に関する現状について
- (2) 土曜授業の実施について
- (3) 小学校給食費の無償化について
- (4) 教育環境の整備状況について
- (5) 教育施策に関する意見交換

### 6. 議事経過の概要

以下のとおり

## ○議事経過の概要

### 1. 開会

宮脇政策企画課長から、開会の宣言及び配付資料の確認がなされた。

### 2. 市長あいさつ

浅田市長から、あいさつがなされた。

- ・ 明るく豊かな未来を切り拓くための「あらお未来プロジェクト」では、教育や子育てなど、子どもへの投資に最も重点を置いている。地域の宝である子どもを、地域みんなで育み、子どもたちが夢と希望にあふれるまちとなることを目指している。
- ・ 具体的な取組としては、子育ての経済的負担を軽減するための小学校給食費無償化や、子どもへの投資に対する寄附の受け皿となる「子ども未来基金」の設立、学校へのエアコン整備に向けた調査設計等を行っている。また、学校施設の環境改善を推進するため組織体制の強化を図った。
- ・ まちづくりを行う上で重要となるのは人づくりであると考え。教育環境の充実や、社会教育、生涯スポーツの振興など、人づくりに関する施策を推進することで、本市で暮らすことの魅力を更に高めてまいりたい。

### 3. 議事

以降の議事については、浅田市長の進行により協議を行った。

#### (1) 荒尾市の教育に関する現状について

前田教育次長兼教育振興課長及び大神生涯学習課長から、資料1に基づき説明を行った。

#### <主な意見等>

- 永尾教育長： 一時期、病気で長期欠席の児童生徒数も不登校として計上したことがあり、数の取り方により、不登校率が変化したことが考えられる。ただし、荒尾市は不登校が多い傾向があると感じている。
- 境委員： 学力と不登校の2つが、保護者にとっても関心がある事項であり、特に、中学校の学力の状況は非常事態だと思う。要因をどのように捉えているのか。  
→中学校の学力は厳しい状況だと認識している。過去10年間の学力状況調査のデータを調査したが、学校統合が

なされる 10 年前は学力は全国平均並みだった。学校が大規模化したことにより個々の生徒に応じた指導が難しくなっていることが考えられる。また、生徒の携帯電話・スマートフォンの利用率が全国平均よりかなり高く、生活面のトラブルが学校に持ち込まれている状況である。授業のスタイルについても、座学中心の授業であることが、学びに対する関心低下を招いていることも考えられる。(西嶋審議員)

境委員： 学力向上を図るためには、どのような授業内容とするかが勝負だと思う。生徒が行きたいと思う学校づくりは先生方にかかっており、教職で生計を立てているのなら、しっかりと教員としての仕事をしなければならない。スクールソーシャルワーカーなど支援体制が取り入れられるようになり、学校や先生方は、トラブルなどをそちらに任せるような場面が多くなったのではないか。専門的な対処はもちろん大事ではあるが、保護者が最も頼りとするのは担任の教師である。また、スマートフォンの問題は、荒尾市に限ったことではない。学力向上のため、質の高い授業を実施し、生徒の知的好奇心を引き立てる必要がある。子どもの意識を変えるためには大人の意識も変えなければならない。学力向上へ向けて教員の意識改革も進めて欲しい。

旭田委員： 境委員と同感である。教員がいかに子どもたちの興味を引かせるかが大事であり、授業の内容を教員が互いに研究する必要がある。

西尾委員： 中学校の学力のデータは衝撃的だが、学校によっては、校長の強いリーダーシップに基づく学力改善が見られることもある。子どもがいきいきしているかどうかは教員の手腕によるところが大きい。子どもたちをどう育てたいか、10年後どのような大人になってほしいかをイメージして指導をお願いしたい。

泉委員： 県外から市内に転入した保護者の話を聞くと、まじめに勉強しようとする生徒がいても適切な指導がなされていないことを懸念する意見を聞いて、申し訳なく思った。中学校の教室で、まじめにのびのびと勉強できる環境を整えていただきたい。

永尾教育長： 全国学力学習状況調査が始まってから 10 年が経過し、以前から学力が低かったわけではないが、中学校の学力が上がらなければ、教育委員会の取組みの説得力が生まれにくい。IT の発達や中高一貫校へのトップクラスの移動は全国どこ

も同じだが、中1ギャップが荒尾市では特に大きい状況である。中学校に入る前の段階で、小中連携や、地域との連携を強化していく必要がある。中学校のレベル向上は、引いては、地元の岱志高校のレベルアップにも繋がると考える。

境委員： 学力は、中1、中2、中3になるにつれて低下していく傾向がある。私立中・附属中は全国どこにでもある中で、頑張っている公立中もある。玉名市に附属中が出来たことは荒尾市の中学校にとっての励みになると受け止め、総合教育会議の場が、荒尾市の学力向上のスタートとなることを願う。

浅田市長： 岱志高校については、県立高校ではあるが、本市としても何かしらの支援を行っていきたいと考えている。幼保小中高のつながりが弱いという指摘もあるが、岱志高校の魅力を高めることが、中学校の学力向上にもつながっていくのではないか。

## (2) 土曜授業の実施について

前田教育次長兼教育振興課長から、資料2に基づき説明を行った。

### <主な意見等>

境委員： 先日の学校便りで土曜授業の内容を見たが、事務連絡的な内容だったと感じた。土曜日に授業を行うことは、これまで、地域と学校が連携して行ってきたことであり、今回、土曜授業を実施するに当たり、地域と事前に相談し、意見を聞いたのか懸念した。  
また、土曜日に授業を始めることによる関係団体への影響も考えられる。授業時間が増加すると学力が上がるのは当たり前であり、学力向上に繋げていただきたい。

→土曜授業の実施については平成28年12月に教育長名で保護者に対し実施の旨を周知している。今年度に入り、保護者への通知や、放課後児童クラブへの説明、PTA 連合会への説明などを行っている。(西嶋審議員)

旭田委員： 八幡小で、地区協議会と小学校低学年と一緒に花植えをしたいという意見があったが、平日だったため日程の調整が難しかったことがあった。地域との関わりを土曜日に行う方が、地域からも参加しやすいのではないか。

西尾委員： 土曜授業に対する保護者の反応は何かあったか。  
→教育委員会に対しては特にはないが、「教育長を囲んで」

の議題として、土曜授業が挙げられている。PTA 連合会の会長を通じて、各学校の PTA へ説明いただいているものと認識している。(西嶋審議員)

西尾委員： 土曜日に授業を行うことにより、教員の負担増加が課題だと思われるが、現場の教員からはどのような意見が寄せられているか。  
→教職員組合からは、土曜授業の振替休を確実に取れるようにしていただきたいとの要望が出ている。  
(西嶋審議員)

永尾教育長： 今回の内容を各団体に事前に説明した際には大きな反応は無く、概ね理解が得られたものと考えているが、土曜日に月 1 回の授業とはいえ、様々な影響が生じることが考えられるため、丁寧に周知を図ってまいりたい。

### (3) 小学校給食費の無償化について

前田教育次長兼教育振興課長から、資料 3 に基づき説明を行った。

#### <主な意見等>

旭田委員： 給食費補助の方法の確認だが、市から保護者に対して直接振り込みを行うのか。  
→申請者は学校長が代理し、金銭に関してはやり取りが生じない形としている。保護者は申請を一度行うのみとなる。(田上所長)

境委員： 給食が無償であることを広く PR するだけでなく、給食費無償化に込めた荒尾市の想いを伝えた方が良い。給食費無償化は、子どもたちが健康に育つことを願ってのものだと思う。機会があるごとに、無償化の意図や願いを子ども・保護者に伝えていくことが必要である。  
現代は家庭環境が様々であり、食事くらいは親がしっかりと食べさせないとといけないと思う保護者がおられる一方で、朝ごはんというものを知らずに育ち、給食だけで生きてきている子どももいるのが実状である。

旭田委員： 給食費無償化に対する市長の想いを伺いたい。

浅田市長： 現実として、朝食を食べない子どもが増えており、授業への集中力低下や、健康への影響を懸念している。給食費を無償化するという事は、市民の方々の税金を使うということで

あり、その意図を広く周知する必要があると考えている。子どもたちの食を支えることが、授業への集中や、健康増進につながると考えるので、教育委員会としても、事業の意図の周知を図っていただきたい。

なお、給食費を無償化したことに伴い、これまで給食費として支払っていたお金については、子どもの食の充実など、子どもたちのために使っていただければと考えている。

泉委員： 給食費無償化はもっと周知があるかと思っていましたが、静かに始まった印象である。せっかくなので、無償化が始まる10月を機会に、PRを強化してはどうか。保護者の間では、無償化を歓迎する一方で、逆に、市の財政を心配する意見もある。無償化で浮いたお金は、中学校への準備金として積み立てることも考えられる。今まで以上に、食に対する感謝の気持ちを伝えたい。

西尾委員： 今の給食は美味しく、子どもは幸せだと思う。学童クラブで朝から子どもが怒っていたため、理由を尋ねると、空腹で怒っていた。以前調査した際は、50人中2～3割は朝食を摂っていなかったという結果だった。給食で命を繋いでいる子どももいるので、健全な精神の発達のためにも、健全な身体づくりは重要である。

#### (4) 教育環境の整備状況について

前田教育次長兼教育振興課長から、資料4-1及び4-2に基づき説明を行った。

#### <主な意見等>

境委員： 以前は荒尾市の学校施設は他自治体と比べて恵まれていたが、現在は老朽化が相当進行している。修繕内容はこれまでの積み残しに対処するための予算措置が多く、攻めの予算が見られない。例えば、学校施設の維持管理に関し、学校の裁量で使うことが出来る予算があれば、それぞれの学校で何が必要かを考えて、施設を充実させていくことが出来るのではないかと。

浅田市長： ICT分野では、学校のパソコンや電子機器などの整備が遅れていると認識している。教育長と相談し、英語教育を強化するための電子黒板の整備等を推進している。本市は、十数年前から財政が非常に逼迫して、教育に限らず全般的に緊縮財政が長年続いてきたが、市議会から学校の危

陰箇所に関する指摘があったことを受け、安全確保のため、早急に対応が必要な工事は12月の補正予算に計上する予定である。学校現場でも様々な要望があるかと思うが、いかに施設を長く使うかという視点から、定期的な改修を行ってまいりたい。

旭田委員： 市長の想いを聞いて嬉しく思う。教育施設の充実を進めていただきたい。

浅田市長： 給食センターは食べ物を扱う施設なので、更新に当たっては、最優先で取組みたいと考えている。建替えには数年程度要すると見込まれるため、場所も含めて、検討を進めたい。

#### (5) 教育施策に関する意見交換

最後に、教育施策全般について、意見交換が行われた。

#### <主な意見等>

西尾委員： 学校で勉強するときに、今の勉強が先々どういった意味をもつのかということ伝える必要がある。良い大学に通い、良い仕事に就くためだけでなく、学び続けることの意味や、社会の役に立つということを教えることで、勉強が嫌になる時期を乗り越えることが出来る。学んだことをどう活かすかを伝えることで、授業・学力にも良い影響があるのではないか。

泉委員： 地域の公民館で開かれた敬老会で、小学生と高齢者が関わる機会があったが、互いに良い影響があった。子どもの数は少なくなっているが、家族、学校、地域みんなで子どもを育てていくようなまちになればいいと思う。

旭田委員： 生徒一人ひとりにとっての居場所が学校があれば、勉強が得意でなくても、学校に行くのが楽しいと思うことが出来る。学校に行くことを楽しみに出来る子どもが増えれば、おのずと、学力向上にも繋がってくるのではないか。

境委員： 市長が教育や子育てにスポットを当てていただいたことに感謝している。市民の中には、自分は既に子育てが終わったと考えている方も多いかも知れないが、今は、死ぬまで子育てに関わっていくことが大事だと思う。生きる力を育むために必要なのは、体力、耐性（がまんする力）、学力、道徳性、感性であり、これらの要素は掛け算で、ど

れが欠けてもいけない。こういう力が育まれる場合は、学校教育ではわずかであり、学ぶ場は偶然に起きる体験や、登校・下校時など、様々な機会がある。子どもに影響が大きいのは家庭教育であり、それを見守る地域を含むしっかりした土台があって初めて、学校教育が機能する。

まちぐるみで子どもを育てるためにも荒尾の市民が変わらないといけない。大人が子どもに対して愛情や安心感を与えるとともに、子どもにとって憧れの存在となるためにも、大人も学ばなければならない。子どもを育てるのは家庭だけではない。

この会議が会議だけで終わるのではなく、行動に移さないといけない。市長の行動を期待する。

永尾教育長： 本日の会議の内容については校長会で報告すると共に、各校の校長を通じて、教員や地域に伝えていただきたいと考えている。

浅田市長： 鹿児島県の伊仙町は合計特殊出生率が2.8と非常に高いが、高い要因は、困った時に頼りにできる人が「何人いるか」が非常に多いことである。保護者や教師だけが子育てを頑張るのではなく、地域社会みんなが子どもを育てていくような荒尾にしたい。社会との様々なつながりが積み重なることで、生まれ育った荒尾を愛せるような想いが育まれると思うので、今後とも協力をお願いしたい。

4. その他  
特になし。

5. 閉会  
宮脇政策企画課長から、閉会の宣言がなされた。